

千野 忠男 前アジア開発銀行総裁が死去

【マニラ、2008年7月18日】 アジア開発銀行（ADB）の前総裁をつとめた千野忠男氏（野村総合研究所顧問）が17日亡くなった。享年74歳。

千野氏は、1999年（平成11年）1月16日から2005年（平成17年）1月31日までADBの第7代総裁として活躍、任期中は、1997～98年のアジア通貨危機の影響を受けて困難な経済下にあった加盟途上国に対する援助供与などにとりくみ、功績を残した。

同氏は、総裁着任直後に「貧困削減戦略」を策定し、貧困削減がADBの最重要目標であることを改めて確認。貧困国に対する低利融資の財源である「アジア開発基金」（ADF）の第7次財源補充交渉を進めたほか、第8次補充交渉（2005～2008年をカバー）にも尽力した。

千野氏はまた、こうした新たな課題を克服すべく、ADBの民間セクター開発戦略を2000年に採択したほか、2002年には組織改編を行い、各国にある駐在員事務所の方針も見直した。千野総裁の指揮の下、ADBの戦略的方向性を位置づけるものとして「長期戦略枠組み（LSTF）」が策定され、途上加盟国が2015年までに国連ミレニアム開発目標（MDG）を達成できるよう、ADBとしても助力することが盛り込まれた。

ADBの黒田東彦総裁は、「千野氏は、貧困を撲滅するという強い意志を持っておられ、その功績は今日においてもしっかりと残っている。ADBのみならず、ともに働いた人、関わった人にとって、（逝去は）惜しまれることになるだろう」と語って

お問い合わせ先

駐日代表事務所

広報担当：望月 章子

T: +81 3 3504-3441/3160

E-mail: amochizuki@adb.org

ADBのニュースリリース（和文）は、下記URLにてご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>

いる。

同氏とADBとの関わりは、ADBの創設時にさかのぼる。1964年、千野氏は国連の旧アジア極東経済委員会（ECAFE、現アジア太平洋経済社会委員会）のバンコク本部において、ADB創設の基礎形成に携わった。千野氏らの努力により、ADBはその後1966年に発足した。

千野氏は、東京大学を卒業後に旧大蔵省（現財務省）に入省、30年余にわたる財務官僚としての経歴を築いた。財務官時代には同省を代表して国際金融会議に多数参加、国際金融のエキスパートとしての地位を確立。ADB退任後は野村総合研究所の顧問をつとめていた。遺族によれば、死因は肝不全。夫人と2名のご息女。

お問い合わせ先

駐日代表事務所

広報担当：望月 章子

T: +81 3 3504-3441/3160

E-mail: amochizuki@adb.org

ADBのニュースリリース（和文）は、下記URLにてご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>